

ごみ問題を減らすために

三蔵子小・6 長谷 結香

私たちの身の回りには、たくさんプラスチック製品があります。便利なプラスチック製品は魚や地球かん境などを傷つけたり、よごしたりすることもあります。このようなことが起きていると聞いて、私はとても悲しくなりました。どうしたらごみの量を減らしたり、かん境をよくしたりできるのかなと思いました。かん境問題を起こさないためにはどんなことが必要か考え、SDGsの十七の目標の中の十一「住み続けられるまちづくりを」について調べ、自分ができることを考えました。

まず、国語の『「永遠のごみ」プラスチック』の学習を通して、どうしたらごみの量を減らしたり、かん境をよくしたりできるのかということについて考えました。それをもとにSDGsの十一番のことを関連づけて調べました。ごみの量を減らすためには、はい気が減らすことや、電気、水などのむだづかいや食品ロスをなくすこと、地域の清そう活動に取り組むことが効果的で、それらがかん境をよくすることにつながることがわかりました。

次に、調べたことをもとに、自分たちでもできることが四つあると考えました。

一つ目は、交通に関する事で、安全に気をつけることと、車などの乗り物なるべく使わずに歩いたり、自転車を使ったりすることです。車を使うことではい気ガスが出てしまい、かん境が悪くな

ってしまいます。なるべく車を使わずに歩いて、余分なはい気ガスを出すことを防ぐことができます。また、私たちが横断歩道をわたるときには、信号を守るなど交通安全に気をつけることで事故が減り、物がこわれたり新しく作ったりしなくてもよいので、ごみを減らすことができます。

二つ目は、必要のない電気や水を使わないことです。学校では、移動教室があります。その時に電気やせん風機をつけっぱなしにするのではなく、一時間でもしっかり消すことが節電につながると思います。また、手を洗うときに水を流しっぱなしにしないこと、トイレを流すときの水量に気をつけることで節水につながり、かん境にやさしくなります。

三つ目は、食品ロスをなくすことです。給食では、一口でも多く食べることが大切だと考えました。この日はしっかり食べる日、この日は苦手なものがあるから減らす日などを書いた表を作ること、自分の食べる量を少しでも増やし、残す量を減らすことができるのではないかと考えました。

四つ目は、地域の清そう活動に参加することです。私たちの地域では年に二回ほど、地域ごとに清そう活動が行われています。多くの小学生は参加していますが、自由参加なので参加をしていない子もいます。さらに多くの人が参加することによって、より多くのごみを集めることができ、地域がきれいになり、かん境をよくしていくことにもつながると思いました。

以上の四つのができると、ごみを減らすことができ、生き物を傷つけたり地球かん境をよごしたりすることが少なくなると思います。かん境問題以外の面でもよい点があります。地球や空気がき

れいになることで少しでも長生きできて人口が減らなくなります。また、お金のむだづかいをなくしてお金をためることができたり、自分たちの地域がきれいになって地域の印象が変わったりもします。かん境問題に関することだけではなく、自分たちのためにつながることもあるのではないかなと思いました。しかし、かん境をよくしていくためには一人一人の意識や行動が大切で、一人ががんばっただけでは実現ができません。一人一人が行動するためには、ポスタ―などをかいて知らせることでいきょうが出るのではないかなと思います。

自分たちが少しでもかん境を変えようとする心と行動で、かん境は変わっていくと思いました。『永遠のごみ』プラスチックの最後の文章で、「環境をよごさないプラスチックの使い方や捨て方を大人も子供もみんなで考え、行動に移しましょう。」と書いてありました。私も、考えた四つのことを取り組んできたいです。そして、家族や友達といっしょにかん境を守るための行動をしていきたいと思えます。